

令和2年度・中学生防犯作文集

with コロナ どうしたらいいかな 防犯活動

- 多摩中央警察署 署長賞 1名
- 多摩稲城防犯協会 会長賞 1名
- 多摩稲城防犯協会 優秀賞 13名

応募総数 511 編
(多摩 232・稲城 279)

多摩稲城防犯協会

〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 1-26-1
多摩中央警察署内

電話・FAX 042 (337) 0019
Email : tamainagi-bouhan@nifty.com
HP : <http://tamainagibouhan.org/>

令和2年度多摩稲城中学生防犯作文表彰者

多摩中央警察署 署長賞（1編）

多摩市立落合中学校 2年 門永 梗花

多摩稲城防犯協会会長賞（1編）

稲城市立稲城第四中学校 2年 吉田 美夏

優秀作品（13編）

多摩市立和田中学校 2年 白鳥 想宇
多摩市立和田中学校 2年 三好かいり
多摩市立和田中学校 2年 三谷 雪乃
多摩市立落合中学校 2年 奥山 千結
多摩市立落合中学校 2年 竹内 蓮咲
稲城市立稲城第二中学校 2年 谷口 二葉
稲城市立稲城第二中学校 2年 松尾 茄南
稲城市立稲城第四中学校 2年 金子 和真
稲城市立稲城第四中学校 2年 小林 花琳
稲城市立稲城第四中学校 2年 新藤 立樹
稲城市立稲城第五中学校 2年 樋口 華代
稲城市立稲城第五中学校 2年 谷口陽向子
稲城市立稲城第五中学校 2年 中山康太郎

令和2年度中学生防犯作文テーマの趣旨

今年度も当防犯協会では、若い世代の皆様には防犯について考えていただく機会として、中学生防犯作文を実施することといたしました。

本年度の作文のテーマは、

「with コロナ どうしたらいいかな 防犯活動」とさせていただきます。

2020年となり、いよいよオリンピックイヤーを迎えた本年度でしたが、新型コロナウイルスが全世界に猛威をふるうという、予想だにできなかった緊急事態となってしまいました。

中学生の皆さんも、外出自粛や学校にも登校できない日々が続くなど大きく生活が変わってしまったことと思います。

そんな社会情勢でも、日々発生する各種犯罪に対する防犯広報活動は必要不可欠です。

これまで、防犯の基本は「人の目」、「ふれあい」、「絆」といったキーワードが重視されており、多摩稲城防犯協会でも、人の集まる機会を捉えた街頭でのキャンペーンや集会での防犯講話など防犯広報活動を積極的に推進してきました。

その結果、平成16年に多摩市2,788件、稲城市1,286件もあった刑法犯認知件数は、昨年（令和元年）には多摩市722件、稲城市338件と、大幅に減少しているのです。

社会情勢の変化に伴って、新たな手口の犯罪の発生もあり、市民の皆さんに各種防犯情報を伝えることは、防犯対策上とても重要な活動です。

しかし、現在の新型コロナウイルスの蔓延とその感染防止対策を考えると、今後「三密」の可能性のあるような形での活動が困難な状況です。

そこで、次代をになう中学生の皆さんに、新しい生活様式の中での防犯活動のあり方についてアイデアを出していただきたいと思います。

今後、どのような形で各種犯罪を防いでいけばいいのか、既存概念にとらわれない自由なご意見を求めています。どうか大勢の生徒のみなさんの参加をいただけますようご協力をお願いいたします。

多摩市立落合中学校

二年 門 永 梗 花

コロナ禍で変わりつつある生活様式。私は防犯活動にも新しい様式を取り入れ、犯罪に対応していく必要があると考えています。そこで、犯罪にある人的要因と環境的要因という視点から防犯について考えてみることにしました。

まず、人的要因についてです。犯罪は、自分の行動次第で防ぐことができるものもあります。そのため、身近に潜む危険に気づき、状況に応じて行動することも大切です。例えば、無駄な外出を避けることを意識することで、犯罪被害を防ぐだけでなく、感染症等の予防も可能になります。

次に、環境的要因についてです。暗い場所や、落書きやごみが放置してある場所は人通りが少ない傾向にあります。そんな場所を減らし、地域の環境を良くするため、今まで地域やボランティアの方々が清掃やパトロール等を行ってきてくれました。しかし、密を避けて行動することが必要な今、ボランティア活動は実施が困難だと思っています。私はコロナ禍でも地域の環境を良くする活動を続けていくために、マスクの着用や三密を避けた集合場所の検討など感染症予防を徹底していけば、できることも少しずつ増えていくと思います。その際電話などを使うことですが、必ず要事項の伝達をすることも可能です。また、複数の集合場所や集合時間を設けることで広範囲でも活動が可能になります。

このように、自分の行動を考え直したり、少し工夫をするだけで様々な防犯活動が可能になると思います。なので、無駄な外出を避けるなど、できることから生活に取り入れ、防犯につながられるよう実践していこうと思いました。

多摩稲城防犯協会 会長賞

稲城市立稲城第四中学校

二年 吉 田 美 夏

新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変化しました。外出自粛で多くの人がストレスをかかえていると思います。そんな中、今高齢者をねらった詐欺が増えています。そこで私はコロナの影響で増えた犯罪をどうやったら防げるのか

考えました。

まずは、地域を見回ることが大切だと思います。たくさんの方が自分の家の周辺だけでも見回りをしてくれば、少しでも効果はあると思います。そして、近所の人たちと声をかけ合うことも大切だと思います。コミュニケーションをとることで、周りに困っている人がいないか確認できると思うからです。さらに、ずっと家について退屈だった人でもコミュニケーションをとることで明るく元気になれると思います。

このような見回りや、近所の人と声をかけ合うことは誰にでもできると思います。とくに今、在宅勤務などで若い人たちが家にいる時間が長いことがあると思います。そのような人たちが少しの時間でもこのようなことをしてくれば、犯罪防止につながるのではないかと考えます。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

多摩市立和田中学校

二年 白 鳥 想 宇

僕は、このコロナによる休みの期間、運動もかねて、ウォーキングやランニング、つまる所、散歩をしていた。始めたばかりの頃はただただ歩いているだけであつたが、後半はトンぐと袋を持ってゴミ拾いも行つていた。また、一人で行くのではなく、家族と一緒にいくこともあつた。

注意して町を歩いてみると、暗い道や、犯罪に気を付ける、という内容の看板も多数見つかった。暗い道では、ゴミのポイ捨てが多いように感じた。そして、散歩している最中に、市からの放送があつた。普段は真面目に聞かないが、親と静かに聞いてみると、コロナに関するオレオレ詐欺に気を付けよう、という物だつた。普段あまり気にしないことでも注目してみると、この暗い道は通らないようにしよう、などと自ら注意をすることができる事もいくつかあつた。

それに加えて、町を歩くことで近所の人と言葉を交わせるため、怪しい人の存在に早く気付くことができる。また、地理についても詳しく知ることができて、防犯意識を高めるきっかけになるのではないかと僕は考えた。

もともと運動不足解消のために始めた散歩だったが、家族とその情報を共有することで家の周囲の暗くて狭い道等を書き込んだ防犯マップの様なものを作つた。こ

れからも町を歩く時は、注意して周りを良く見ながら歩いて行こうと思う。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

多摩市立和田中学校

二年 三好 かいり

私は、休業中の店舗を狙った窃盗事件、置き配荷物を狙った窃盗事件などがコロナ禍での犯罪として挙げられると考える。今、コロナウイルスが広がる中で警察や地域の警戒心が弱まってきている気がする。今もこのような被害にあっている人がいると思う。そのために、二つの防犯活動が考えられる。

一つ目は、警察や地域の警戒心を強めるため、まず地域の見回りから始めることだ。そうすれば、意識が多少なりとも防犯に向くと考える。身近なことから始める事で少しでも犯罪を防ぐことが出来ると思う。また、自分の家や地域の家を守るためにも、そのような取り組みは必要だ。

二つ目は、防犯カメラを設置することだ。お金はかかるが自分達のためにも家族などで見直す必要がある。今は、あまり外出できない状況におかれている事から、暗い道などにそれらを設置することで防げると思う。またセンサーライトも使う事で夜道を明るくする事ができる。この防犯カメラ、センサーライトは、不審者への対策にも役立つと思う。

このような、二つの防犯活動は今すぐにも始めていけると考える。それから、防犯対策を行う事でコロナウイルスになる前から起こっていた犯罪も未然に防ぐ事ができ、防犯環境の向上にもつながると思う。地域全体でも今取り組んでいける事を広げていきたいと思っています。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

多摩市立和田中学校

二年 三谷 雪乃

現代の Σ コロナでは、感染症防止のため、飲食店に限らず、様々な会社で売り上げが伸び悩んで、有名企業の倒産などが多くあります。すると、会社員や飲食店の従業員は収入が得られず、どうにか生活費をまかなおうとします。今、コロナ

だからこそ起きてしまっている金銭トラブルは、高齢者以外にも、若者も被害にあっています。

この現状を改善するため、若者への声かけを増やすべきです。より効果が高いのは、多くの若者が使うSNSツールが良いのではないのでしょうか。ツイッターなどのインフルエンサーに頼み、金銭被害をなくすための声かけをしてもらうなど、とにかく若者の目に留まるような声かけにせねばなりません。ポスターなどの案もあるかとは思いますが、私としては、今の時代若者はポスターをあまり見ないと思います。ポスターを作るなら、今人気のキャラクターを使うなどして、目をひくものを作らなければ、効果は薄いと考えました。また、インターネット、SNSの効果を高めることが期待できるのは、マスクとの連携です。テレビのニュースでも、最近ではSNSで「バズる」という現象が起きた時は、ニュースの一つとして取りあげられることがあります。もし上手くSNSで声かけをバズらせてマスクの目にも入れば、若者のみならず、ニュースを見ている様々な人に伝わるはずで、防犯活動で声かけをする時、SNSツールを使うことで、改善はできるのではないのでしょうか。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

多摩市立落合中学校

二年 奥山 千結

Σ コロナの今、私が防犯に必要なだと考えるもの。それはあいさつです。理由は二つあります。

一つ目は、マスクをつけていて、人の表情が分からない、ということ。皆、コロナにかからない、うつさないためにマスクをつけていますが、そのために人の表情が見えにくくなってしまっています。私も近所の人に会ったとき不機嫌のかな、怒っているのかな、と不安になってしまうこともあります。あいさつをして返ってきたら、表情が見えなくても明るい気持ちになることができます。

二つ目は、外出を控えることで近所の人達との交流が少なくなってしまうということです。もし外に出ても、ソーシャルディスタンスをとったり、三密を避けたりして関係が希薄になってしまいます。でも、そんなときに離れていても大きな声であいさつをすれば、皆の気持ちが明るくなると思います。

このように、皆があいさつを交わして、社会全体が明るくなれば、防犯にもつながっていくと思います。私もマスクで聞こえにくいことのないよう、大きな声で、はっきりと自分からあいさつしていきたいです。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

多摩市立落合中学校

二年 竹内 蓮 咲

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界中の人々が「stay home」しました。そこで注目されたのが「オンライン」です。今やSNSの可能性は無限大と言えます。一方でその可能性が及ぼす危険を忘れてはいけません。

一つ目は個人情報の流出です。「TikTok」などの動画や画像を投稿するアプリをやっている人も、多いのではないのでしょうか。しかし、その何気ない投稿に映り込んだ景色などから、個人情報や場所は簡単に特定できてしまうのです。そして、その投稿が消えることはありません。投稿する際は、油断せずよく注意することが大切です。

二つ目は誹謗中傷です。ネット上では相手の顔が見えないだけに、平気で悪いことを言う人がいます。そして私が言いたいのは、「自分自身が加害者になることもある」ということです。「私のたった一言が、誰かを傷つけるかもしれない」と強く意識した上で、ネットには書き込んでほしいです。また、イントネーションや雰囲気伝わらないため、相手に勘違いされてしまうこともあります。悪気はなくても、相手を傷つけてしまったということがなくなるよう、書き込む前に一度確認すると思います。意外とその一言には重さがあります。

この他にもSNSには危険が潜んでいます。しかし正しく使えば、この新型コロナウイルスが感染拡大している世の中では、とても便利です。自分自身被害を受けない、与えないよう、使い方には十分気をつけましょう。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

稲城市立稲城第二中学校

二年 谷口 二葉

今、新型コロナウイルスの感染が拡大しているなかで、私は電話での現金をだましようとする犯罪が増えてきていると思います。

よくニュースなどで見かけますがこの被害を完全に防ぐのは難しいが少なくすることはできると思います。

まず、現金などを支払わなければならないような電話がきたら怪しみ、心あたりがないのならすぐに電話を切ることが大切だと思います。次に、自分の個人情報は誰にも教えないということです。犯人は警察署員と名乗ったりするので危険です。

これまでは、「おれおれ詐欺」など老人が対象となっていました。今は様々な年齢の方が被害の対象です。「自分は大丈夫」と思うのではなく、常に警戒しておくことが大切だと思います。

このことから、現在、新型コロナウイルスが流行しているなかでの電話の詐欺は、常に警戒し、個人情報の流出を徹底し、少しでも被害数を減少させることが防犯に繋がると思います。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

稲城市立稲城第二中学校

二年 松尾 茄南

コロナウイルスが流行している現在、新しい生活様式ができるなか、詐欺の手口も変化している。例えば、マスクが手に入らない今、偽サイトでマスクを販売し、購入した人が入力した情報を抜き取るという手口だ。他にも給付金を使った詐欺事件が起きたという。このような悪質な詐欺、犯罪を防止するためには二つのことが大事だと思う。

一つ目は、お金に関わる話には気をつけるということだ。犯行グループは早々と話すことが多いので、考える余地がないかもしれないが、お金が関わってどこか不審に思ったら、家族や警察に相談してみることで、犯罪に巻き込まれることを防ぐことができる。

二つ目は、アクセスしたくなるメッセージに気をつけることだ。アクセスをして自分の個人情報抜き出されてしまうかもしれないという考えをもつことが大切だと思う。

以上の二つのように、自分は詐欺などにあうはずがないと思うのではなく、何事も一度しっかりと考える必要があると思う。コロナウイルスだけを気にするのではなく、犯罪に巻き込まれないための方法を一人一人が考えていけると良いと思う。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

稲城市立稲城第四中学校

二年 金子和真

新型コロナウイルスによる自粛によって、人と人との関係が希薄になりがちだが、それにつけこんだ犯罪が増えていることをニュースで知りました。特に、高齢者を狙った詐欺などの犯罪が増えているようです。今回、この作文を書く時、ふと祖母のことを思い出しました。

私には、府中に一人で住んでいる祖母がいます。コロナが流行する前までは良く会っていました。しかし、コロナ感染の危険から2月頃から最近まで会っていませんでした。この会っていない期間に、祖母に詐欺の電話や訪問があったかもしれないと思うと、とても心配になりました。しかし現在、電話やメールなどが普及しているため、時々祖母に連絡をして、話を聞いてみたり、ニュースの情報をアドバイザーとしてあげるだけでも祖母の安全を守るのではないかと、思いました。

このような身近な事なら、今の私にもできる防犯活動の一つだと思います。コロナウイルスに感染しないために自粛をしつつ、家族が安全に過ごすためには、連絡をとり合うことが一番大切だと思います。また、色々な視点で防犯活動について考えてみたいと思います。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

稲城市立稲城第四中学校

二年 小林花琳

今年になって流行りはじめた「新型コロナウイルス」。私たちはそのウイルスから

ら身を守るためにマスクを身につけます。

ならば、「犯罪用マスク」もあるのではないのでしょうか。私はあると思います。もちろんお店では売っていません。一人一人が自分で持っているはず。ではそれは何でしょうか。

それは「怪しいと少しでも思ったなら疑う」ということです。あたりまえのことです。すよね。しかしそれで「本当」「大丈夫」と信じてしまうことで犯罪は起こるのです。少しでも怪しいと思ったらすぐに疑ってください。疑うだけならタダだし、誰に迷惑をかけるというのでしょうか。

あたりまえの事、単純な事、というものこそ見落としやすいものです。犯罪というウイルスが収まり、マスクをはずした後もずっと。

この作文を読んでくれた方には、「犯罪用マスク」をつけてほしいと願っています。最近では新型コロナウイルスに便乗した悪徳な犯罪も増えてきています。

犯罪から身を守り、犯罪者をぎゃふんと言わせてやりましょう。

多摩稲城防犯協会 優秀賞

稲城市立稲城第四中学校

二年 新藤立樹

僕はマスクをつけて今までどおりに防犯活動をすればいいと思います。理由は、防犯活動をコロナだからといってしなかったら、犯罪が増加してしまうし、マスクをしていたら濃厚接触にはならないからです。具体的には、人数を減らして密にならないようにしたり、回数を倍にしたりすることで安全に活動できると思います。防犯活動をすることによって犯罪件数が減っているため、これをしなくなると犯罪が増えて、治安の悪化になってしまいうので、件数を減らすのは良くないと思います。なので、件数を倍にするかわりに人数を半分などに減らしてパトロールなどを行うと感染対策もできるし、パトロールなどもしっかりできるから良いと思います。

稲城市立稲城第五中学校

二年 樋口華代

最近は新型コロナウイルスの影響で、紙製品、とくにマスクなどが売れています。マスクを着用しないと利用できない施設があるからです。そのため、マスクを転売する人がでてくるのです。

私はこの問題について、買い占めする人をなくすべきだと考えている。自分の家のマスクがなくなって買いに行き、まだあるうちにと今不要分まで買う。そして後に来た人はマスクが足りなくて転売されている物を買ってしまう。このような悪循環が今、生じています。また、転売目的で買い占め、買い占めたせいで買えなくなってしまう人に高く売りつけるという悪質な人もできています。このようなことが起こらないように一人一人が節度と思いやりをもって行動すること、転売された商品を買わないことがマスクなどの紙製品転売の歯止めに繋がるのではないかと考えています。

以上のことから、私は皆が自分だけでなく他人の状況を理解した上で思いやりをもって買い占めや転売をしない。一人一人が意識していくことが犯罪への防止になるのではないかと考えています。

稲城市立稲城第五中学校

二年 谷口陽向子

このコロナ禍の中、コロナを発症した人への誹謗中傷が問題になっていく。

今は、多くの人が情報をいつでも発信できる時代だ。コロナを発症した人が実体験を語ることもできれば、そこに色々な人が返信することもできる。その中には、心優しいコメントもあるが、憶測だけで決めつけ発信者の中傷するコメントもある。私は、この問題について、たとえ発症した人がいても、誰も責めるのではなく温かい言葉をかけられる。こういう社会を作るために一人一人が考えていくべきだと思います。

ある日、テレビでいじめられていた子が、一人の「大丈夫」や「苦しんでも私が

いるから」などの声かけが救われたと言っていた。私は声をかけることでも重い気持ちを持てると知った。だが、それと同時に言葉は刃物ということも知った。言葉は、人を救う言葉にもなれば、人を傷つける言葉にもなる。

また、今の社会では、対策をしても感染する可能性は誰にでもある。こういうことを、一人一人が頭に入れることで、発症者への誹謗中傷を止めることに繋がると思う。

私は、コロナにかかった人への誹謗中傷の防止は、温かい言葉を使うことや、誰でも感染する可能性があること知ることが大切だと考える。そうした社会を作ること、犯罪への防止になると考えている。

稲城市立稲城第五中学校

中山 康太郎

新型コロナウイルスの影響でいろんな人が経済的に苦しんでいて、飲食店の中では辞めてしまうお店もあるとニュースで報道されているのを見ました。こうしたコロナによるお金との関わりは問題になっている。

ぼくはこの問題について、こんな時だからこそみんなが協力し合って詐欺のような犯罪を無くしていくべきだと考えている。

とある年寄りの女性が詐欺にだまされたのがテレビでやっていて、やられた人はとても悔しくて苦しいと思います。今では詐欺のようなお金にまつわる犯罪が増えている現状である。少なくとも自分の身の回りには犯罪にまきこまれてほしくない。こういう意識を持つ人が広がれば、犯罪にだまされて苦しい生活が減っていくと思います。

以上のことから、詐欺などの防止は、自分がまきこまれるかもしれないという意識を持って周りの人にも呼びかけるのが大切だと思います。そうして社会全体が協力して、立ち向かえば犯罪防止に繋がると思います。

